STROKE LAB / TMIG INDEX OF COMPETENCE

老研式活動能力指標｜評価票

13項目・はい＝1点 / いいえ＝0点　　総点0〜13点

氏名・ID：＿＿＿＿＿＿＿＿　評価日：＿＿＿＿＿　評価者：＿＿＿＿＿

回答：本人・代理（続柄　　）　方法：自記・面接　生活場所：＿＿＿＿＿

質問文に沿って回答を1つ選びます。不明は無理に0点にせず、未確認として別記します。

手段的自立 / 1〜5		はい	いいえ
1	バスや電車を使って１人で外出できますか	○ 1	○ 0
2	日用品の買い物ができますか	○ 1	○ 0
3	自分で食事の用意ができますか	○ 1	○ 0
4	請求書の支払いができますか	○ 1	○ 0
5	銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか	○ 1	○ 0
知的能動性 / 6〜9		**はい**	**いいえ**
6	年金などの書類が書けますか	○ 1	○ 0
7	新聞を読んでいますか	○ 1	○ 0
8	本や雑誌を読んでいますか	○ 1	○ 0
9	健康についての記事や番組に関心がありますか	○ 1	○ 0
社会的役割 / 10〜13		**はい**	**いいえ**
10	友だちの家を訪ねることがありますか	○ 1	○ 0
11	家族や友だちの相談にのることがありますか	○ 1	○ 0
12	病人を見舞うことができますか	○ 1	○ 0
13	若い人に自分から話しかけることがありますか	○ 1	○ 0

手段的自立　　/5 ＋ 知的能動性　　/4 ＋ 社会的役割　　/4 ＝ 総点　　/13

未確認項目：＿＿＿＿＿　※未回答がある場合、完全な総点として扱わない。

出典：厚生労働省「介護予防マニュアル第4版」別添資料2-3。

質問文・配点を参照し、下位尺度と記録欄を加えた編集版。公式配布票そのものではありません。

聞き取りと解釈｜確認シート

質問の語尾・回答の背景・実際の生活を分けて記録

1　「できる」と「している」を分ける

能力を問う質問に、家族が代行しているという理由だけで「いいえ」を付けない。一方、新聞や読書など実行を問う質問を、できそうという推測で「はい」にしない。

2　質問文と条件をそろえる

全員に13項目を確認する。性別や役割分担を理由に項目を省かない。独自の回数や期間、スマートフォン利用への置き換えを採点条件に加えない。

3　総点と3領域を記録する

手段的自立0〜5点、知的能動性0〜4点、社会的役割0〜4点。13点満点の総点に加え、どの項目の回答が変わったかを残す。

4　低い点数の理由を確かめる

身体・認知機能だけでなく、機会、交通、家族の役割、本人の希望、視聴覚、入院・転居などを確認。総点だけで認知症や介助の必要性を診断しない。

今回の未確認項目・理由

本人の説明 / 家族などからの補足

生活環境・役割・機会の変化

次に確認する生活動作・支援の候補

経過記録｜点数と生活の変化

同じ質問・回答者・実施条件をできるだけそろえて比較

氏名・ID：＿＿＿＿＿＿＿＿　目標とする生活：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記録項目	前回	今回	次回
評価日・回答者			
手段的自立 /5			
知的能動性 /4			
社会的役割 /4			
総点 /13			

変化した項目番号と具体的な内容

本人が希望すること / 支援内容

実施条件の違い・未確認事項・次回の確認日

原資料

厚生労働省：介護予防マニュアル第4版・別添資料2-3
https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001239047.pdf

Koyano W, et al. Arch Gerontol Geriatr. 1991;13(2):103–116.